

試行調査について

1. 地域の状況

- (1) 地域の課題 (担い手の不足、地場産業等の低迷、生活機能の低下)
- (2) 地域の潜在的力
- (3) 市町村連携の状況

2. 地域における生活行動

3. 地域の声

4. 圏域としての取り組みの方向性

1. 地域の状況 (1) 地域の課題

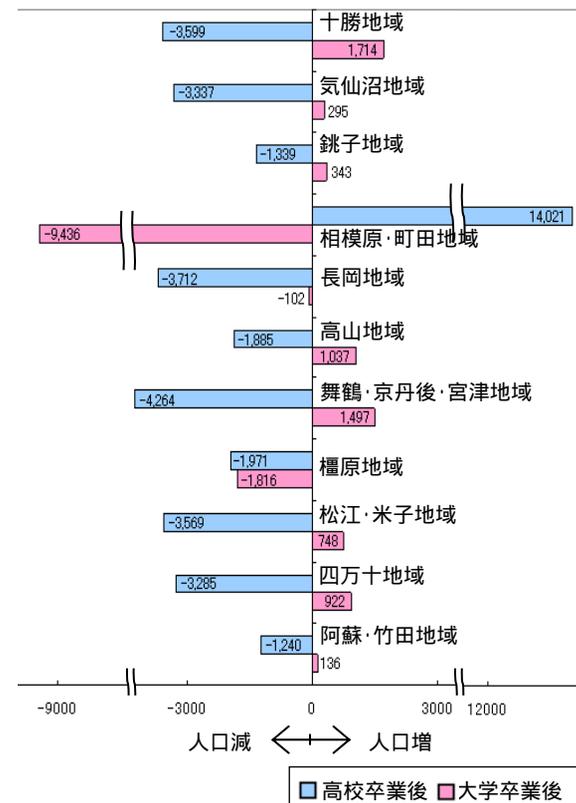
(1) 地域の課題

担い手の不足【別紙1】

地方は大都市圏に比べ高齢化の進展が著しい。

さらには、高校卒業後に大学進学や就職等のため流出した人口が、その後も戻ってこない状況にあり、労働や地域づくりの担い手となるべき若者人口が減少している。

地域名	20代30代人口率 (H17:20~39歳)	高齢化率 (H17:65歳以上)	高校卒業前後 (H12の15~19歳と H17の20~24歳) の人口増減(人)	大学卒業前後 (H12の20~24歳と H17の25~29歳) の人口増減(人)
十勝地域	23.7%	22.0%	-3,599	1,714
気仙沼地域	18.0%	27.9%	-3,337	295
銚子地域	22.1%	24.1%	-1,339	343
相模原・町田地域	30.9%	16.2%	14,021	-9,436
長岡地域	23.6%	23.7%	-3,712	-102
高山地域	22.0%	25.3%	-1,885	1,037
舞鶴・京丹後・宮津地域	20.4%	26.6%	-4,264	1,497
橿原地域	25.1%	20.4%	-1,971	-1,816
松江・米子地域	24.2%	22.6%	-3,569	748
四万十地域	17.6%	30.5%	-3,285	922
阿蘇・竹田地域	16.5%	33.9%	-1,240	136
全国平均	26.7%	20.1%	-	-



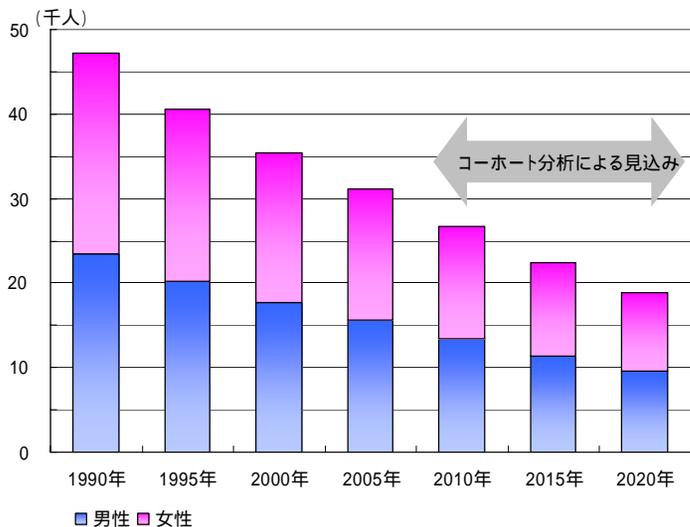
特に第一次産業への従事者の減少・高齢化が進んでいる地域が多く見られ、地方の農林漁業において、後継者不足が問題となっている様子が伺える。

ただし、次のように、地域によっては危機的状況にないところもある。

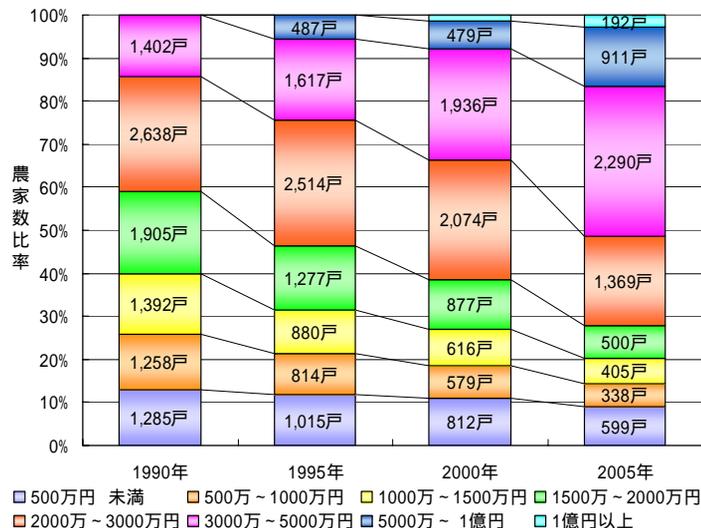
十勝地域では、農家人口は減少しているものの、経営の大規模化・農産物のブランド化により、農業産出額は高水準を保っている。

阿蘇市では、農家人口は全体として減少しているものの、Uターンに関する情報発信、農業体験や農業経営・農村生活に関する研修などを実施することにより、農業等の担い手の受入に成功している。(ヒアリングより)

< 十勝地域の農家人口の推移 >



< 十勝地域の農産物販売金額規模別農家数比率 >



出典: 十勝農業ビジョン2011(十勝農業協同組合連合会)

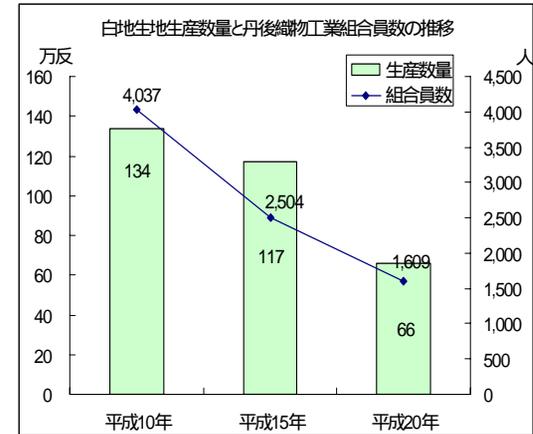
地場産業等の低迷【別紙2】

地域の基幹産業となりうる地場産業や農林水産業は、安価な輸入品の影響や従事者の高齢化、後継者不足などにより、低迷の傾向にある。

舞鶴・京丹後・宮津地域では、丹後ちりめん産業が盛んで、白地生産の国内シェア6割を占めるが、下請的な白地生産の構造や、高級素材としての販路拡大の停滞等のため、経営環境が厳しい。

このため、企業数・従業員数・生産規模ともに減少傾向にあり、従業員の高齢化・後継者不足が問題となっている。

一方で、パリのオートクチュールに出品するなど、高級素材としてヨーロッパに認めてもらう取り組みを進めており、ビジネスにまでは繋がっていないが、反応はよい。(ヒアリングより)

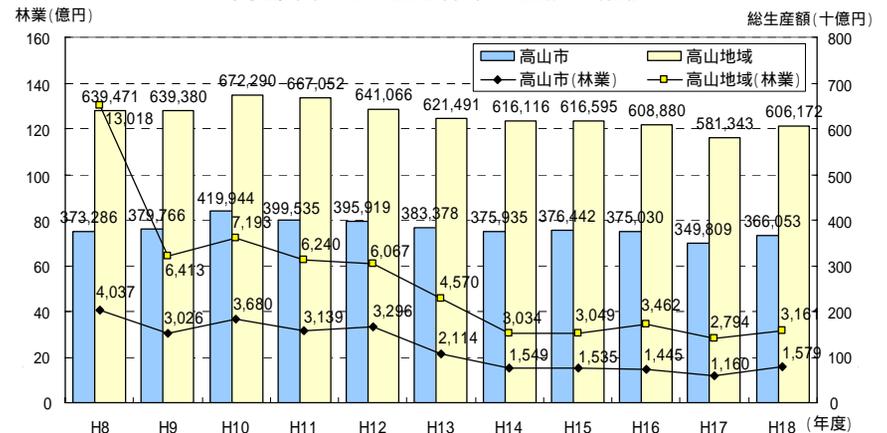


出典：丹後織物工業組合資料に基づく京丹后市作成資料

高山地域では、木工産業が盛んだが、生産額が大きく減少している。また、飛騨木工の原材料は国産がほとんど無く、海外に大きく依存している。

一方で、住宅メーカーとの連携や、ヨーロッパへのPR、美濃和紙・美濃焼等の他地域の地場産品とのコラボレーションにより需要拡大に向けた取組を行っている。

< 高山市内総生産と林業生産額の推移 >



出典：岐阜県の市町村民経済計算

1. 地域の状況

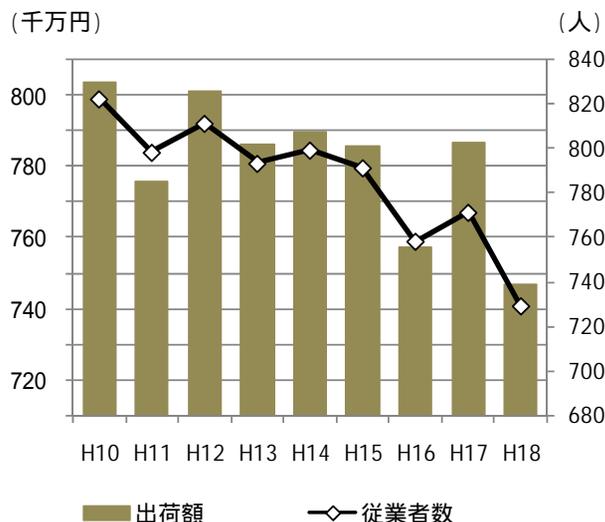
(1) 地域の課題

松江・米子地域では、水産資源に恵まれ、日本海沿いの主要漁港の周辺には水産加工品の関連業種が集積しているが、近年低迷が続いている。

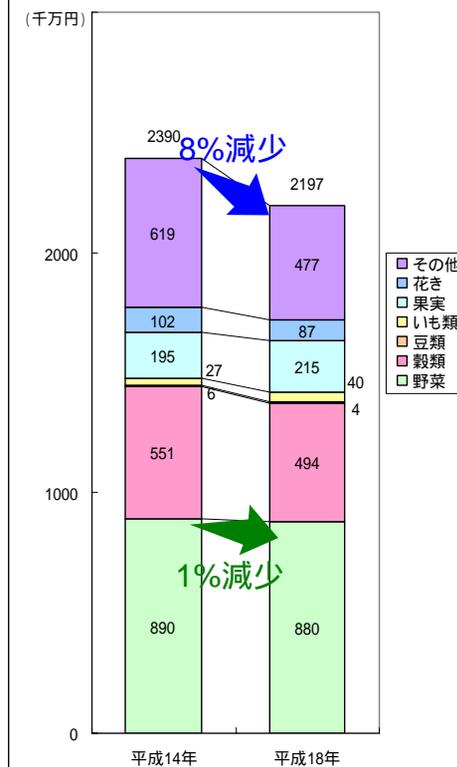
四万十地域では、農業従事者の減少・高齢化が進展しており、農業産出額の減少も著しい。

一方で、四万十町では、認定農業者等の地域の中核を担う農業者の育成、集落営農組織や農業公社の設立などの地域営農システムの構築に取り組んでおり、産出額は増加傾向にある。

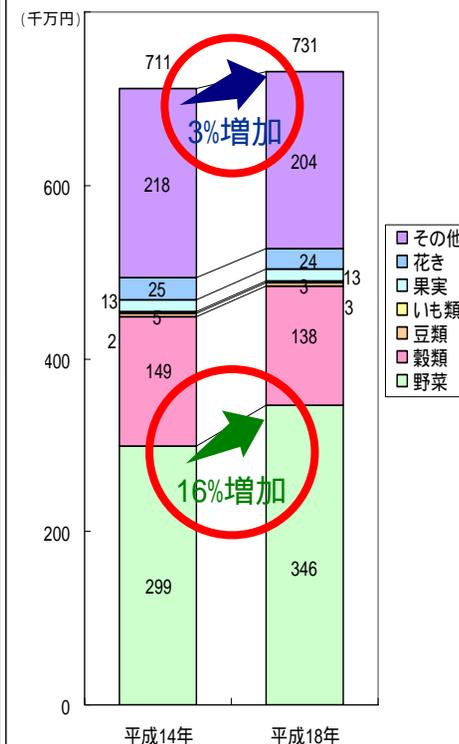
< 島根県の水産練製品製造業の出荷額・従業者数 >



四万十生活圏での品目別農業産出額の変化



四万十町に関する品目別農業産出額の変化



出典: 生産農業所得統計

1. 地域の状況

(1) 地域の課題

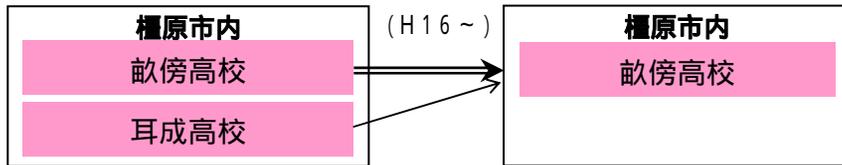
生活機能の低下【別紙3】

教育、医療・福祉、商業、交通など、日常の生活に必要な機能の維持・確保が困難な地域が見られる。

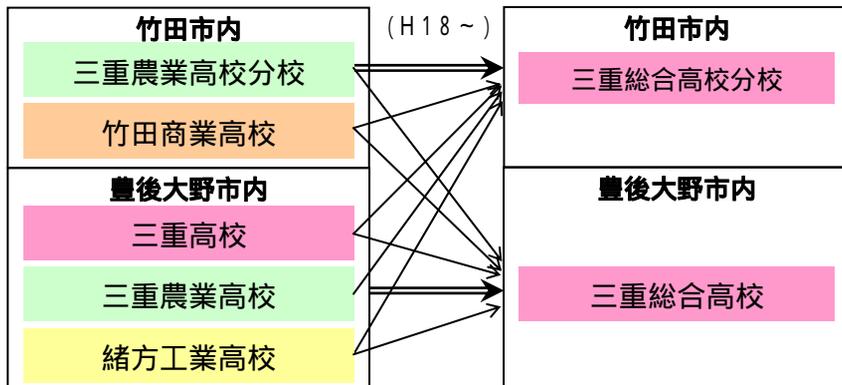
() 教育

学生数の減少に伴い、高校の廃止・合併が進んでいる地域がある。

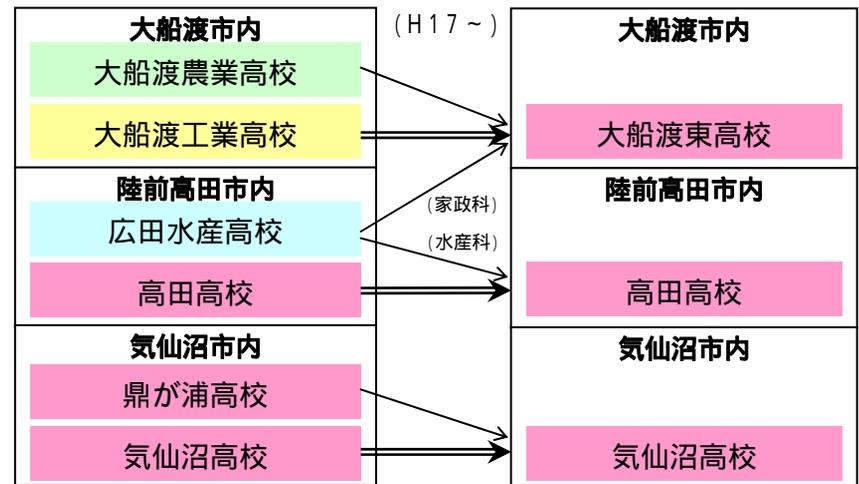
橿原地域では、橿原市の2校が平成16年度に統合により1校に。橿原市周辺の地域(10%通勤圏)でも、平成16年度以降、10校が統廃合により5校に。



阿蘇・竹田地域では、竹田市の1校(+1分校)が隣接の豊後大野市の3校と平成20年度に合併して1校(+1分校)となり、竹田市は分校のみに。



気仙沼地域では、大船渡市、陸前高田市、気仙沼市に計6校あった高校が、平成17年度に統廃合により3校に。



→ 校舎存続

1. 地域の状況

(1) 地域の課題

() 医療・福祉

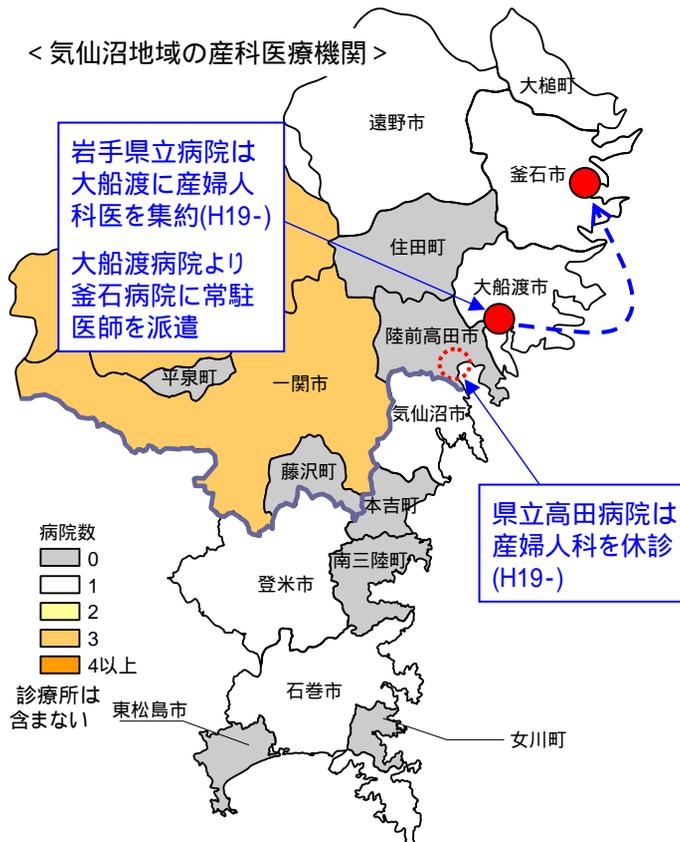
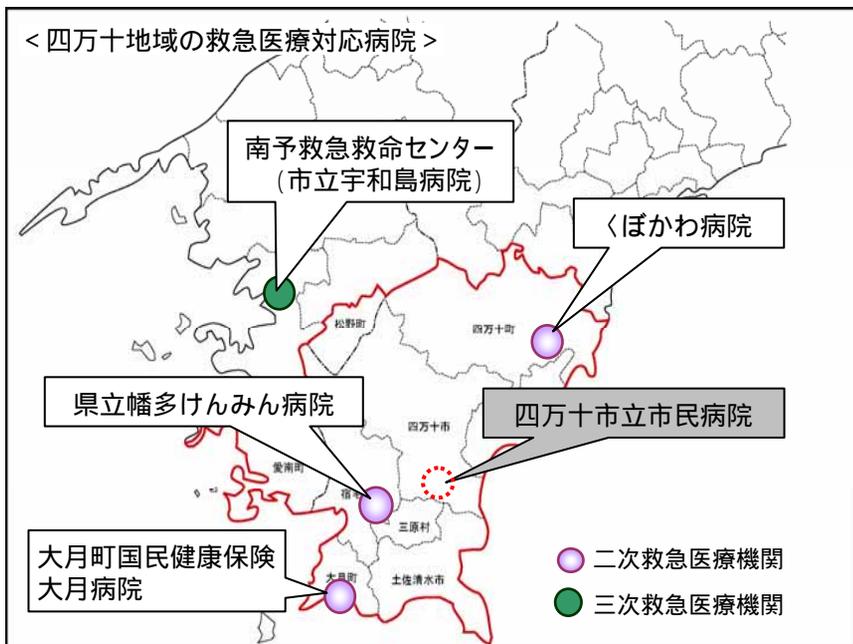
総合病院の撤退や小児科・産婦人科等の撤退、夜間救急の休止等により、地域の人々を取り巻く医療環境は厳しくなる傾向にある。

銚子地域では、医師不足や財政難により、銚子市立総合病院が平成20年9月末より休止。

気仙沼地域では、平成19年より県立高田病院で整形外科・産婦人科が休診。

松江・米子地域では、境港市で唯一産婦人科を有する境港総合病院で、常勤医師がいないため出産が不可能に。米子市などの他病院を利用。

四万十地域では、四万十市立市民病院が平成19年より夜間の救急医療を廃止。地域内の夜間受入病院が4箇所から3箇所に。

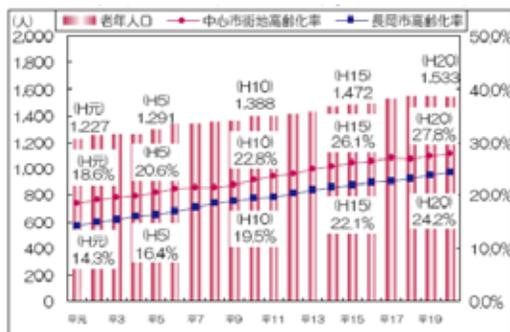


() 商業等

地方都市における中心市街地の衰退は著しい。また、各地域で事業所数は減少傾向にある。中山間地域においては、人口減少に伴い生活必需品を入手するための既存店舗の撤退が著しい。

長岡市では、中心市街地の人口減少・高齢化が著しく、空洞化も進行しており、購買力が大きく低下している。

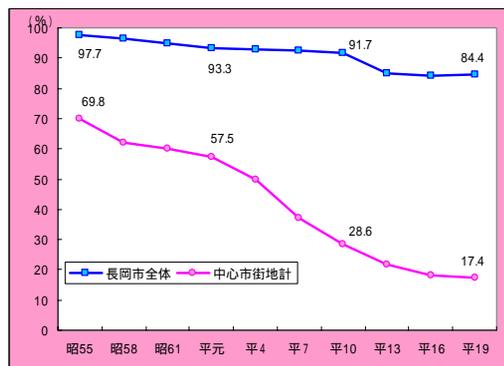
このため、「長岡市中心市街地活性化基本計画」を策定し、平成20年11月に大臣認定を受けたところであり、市役所機能のまちなか回帰などの取り組みを総合的に進めている。



< 中心市街地の老年人口及び高齢化 >



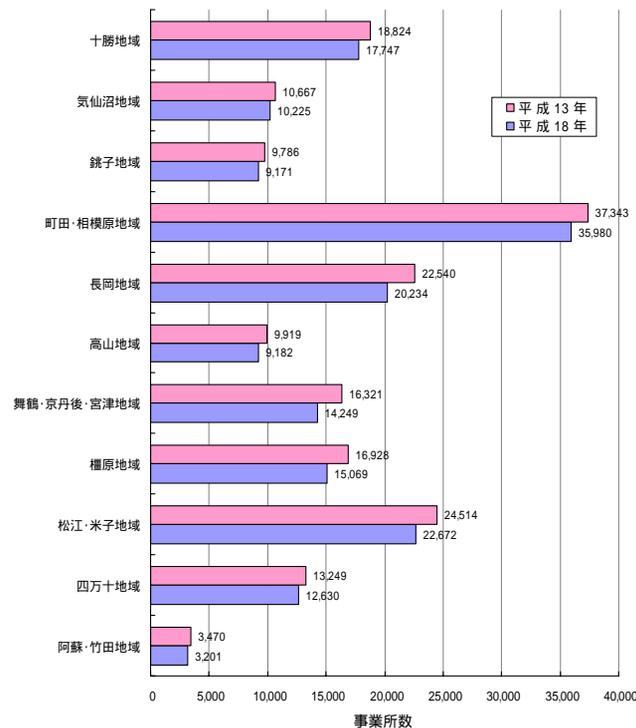
< 人口の推移 (昭和55年を100とする増減) >



< 中心市街地買物利用割合 (買回り品) >



< 中心市街地の空き店舗の状況 >



< 事業所数の推移 >

出典:長岡市中心市街地活性化基本計画より作成

1. 地域の状況

(1) 地域の課題

四万十市の西土佐地域では、JAが購買事業から撤退するなど、商業が衰退しており、集落の生活に影響を与えている。

このため、

- ・ 廃止となったJAの事業を、住民等が出資する株式会社が引き継いで日用品を販売。
- ・ 地元の商店6店舗が、移動販売店として1日1回、週5～6日、地域を周回。



西土佐地区現況写真



< 西土佐地域における移動販売ルート >

() 交通

公共交通路線の減少等により、地域のモビリティが確保できなくなっている。また、狭隘な道路等により通勤・通学や緊急医療等に不便を来している例もある。

橿原地域では、桜井市の山間地方面に運行するバス路線の一部が休止・減便。また、路線バスの休止に伴い運行したコミュニティバスも、休止・減便が続いている。

奈良交通の以下の2路線が、平成17年9月30日に休止。

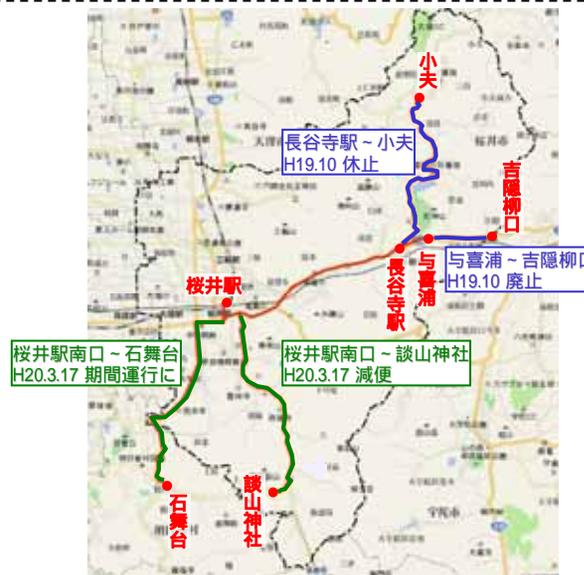
- ・小夫線 (桜井駅ー小夫)
- ・桜井初瀬線 (桜井駅ー吉隠柳口、与喜浦)

休止に伴い運行を開始した桜井市コミュニティバスが、平成19年10月に休止・路線短縮。

- ・小夫線 (桜井駅ー小夫) : 長谷寺駅 - 小夫間が休止
- ・桜井初瀬線 (桜井駅ー吉隠柳口、与喜浦) : 全便が与喜浦止まりに

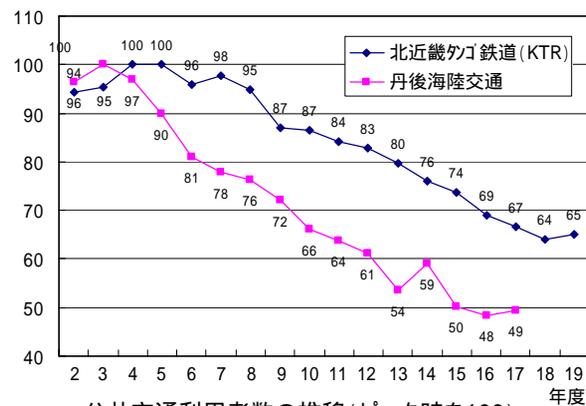
平成20年3月に、さらに減便。

- ・奈良交通 多武峯線 (桜井駅ー談山神社) : 平日13.5 10便、休日13 8便に減便
- ・奈良交通 桜井初瀬線 (桜井駅ー与喜浦) : 9 7便に減便
- ・コミュニティバス 飛鳥線 (桜井駅ー石舞台) : 3~6、8~11月の土日祝日のみの期間運行に



舞鶴・京丹後・宮津地域では、公共交通の利用者が大きく減少。地元バス事業者の一つである京都交通の倒産やバス路線の縮小など、地域を支える公共交通が衰退。

このため、京丹後市・宮津市で、事業者・行政・住民が一体となり、観光情報・公共交通マップの充実、クーポンの販売、接遇改善、上限200円バスの運行などを総合的に実施。利用者が増加に転じた。



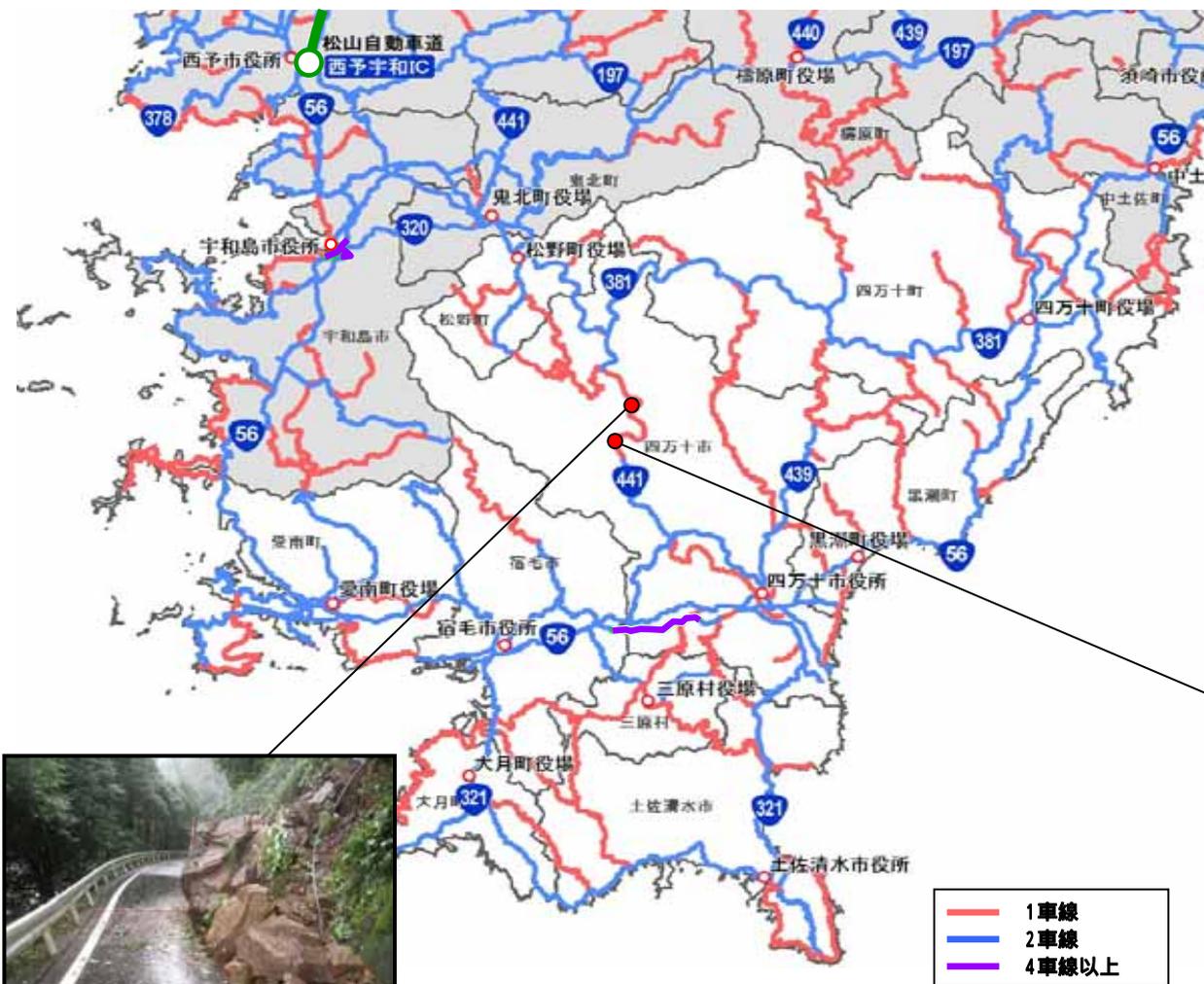
< 丹後海運交通(株)及び市営による
上限200円バスの利用者数 >

	H17	H18	H19
上限200円バス 利用者数(万人)	9.3	15.2	30.3

1. 地域の状況

(1) 地域の課題

四万十地域では、都市部からの高速道路が未整備であり、市町村間を連携する道路においても2車線が確保されていない道路が多い。特に、中山間地では道路が脆弱である。



くちやない
国道441号:口屋内地区状況

—	1車線
—	2車線
—	4車線以上

1. 地域の状況

(2) 地域の潜在力

(2) 地域の潜在力

それぞれの地域には、その地域ならではの特色・資源がある。しかし、それらが有効に活かされていないのが現状。

気仙沼地域では、地元企業と岩手大学が連携して、漁業系廃棄物のカキ殻を有効活用した漆喰を開発。県内で発生するカキ殻は7千トン(県推定)で、そのうち5千トンが大船渡湾や広田湾がある気仙地方に集中しており、大きな可能性を秘めている。

銚子地域では、銚子港が日本一の水揚げ量を誇りながら、地元漁船の減少などにより、「地域にお金が落ちない構造」となっており、大きな経済効果が得られていない。

高山地域では、伝統工芸として飛騨木工が有名だが、その原材料は国産がほとんど無く、海外に大きく依存している。



飛騨木工

舞鶴・京丹後・宮津地域では、西日本で唯一の最高位評価(特A)を5年連続で受賞した丹後コシヒカリなどを有しながら、生産者の7割が独自ルートで販売しており、地域全体としてのブランド力向上に繋がっていない。



新生姜

四万十町

四万十地域の
特産品

四万十地域では、清水サバ、カツオのたたき、新生姜、ゴリの佃煮などの優れた農林水産品が多数存在しているが、「四万十」の高い知名度に反して、地域団体商標に出願している商品は四万十川の青さのり・青のりのみである。



土佐清水市

清水サバ

高山地域では、建設業の傍ら、地元奥飛騨エコセンターで作られた有機堆肥を用いて、手間をかけて特A米を育て、地域活性化に繋げようとしている方がいる。設備投資などの負担が大きいため賛同者がなかなか現れなかったが、ようやく目処が立ち、農業生産法人化の申請をしているところ。現在、休耕田の集約を図るなどの取り組みが進められている。

1. 地域の状況

(3) 市町村連携の状況

(3) 市町村連携の状況

市町村間の連携により、生活機能の効率的な活用や、地域資源の有効活用を進めている地域もある。

一方で、多くの市町村では、圏域連携への一歩が踏み込めない状況にある。

- ・ 地域が抱える課題や将来直面するであろう課題が浮き彫りにされていないため、見過ごされがち。
- ・ 圏域連携の必要性、メリットが理解されていない。

米子・松江地域では、中海周辺の4市(米子、境港、松江、安来)が連携し、H19.4に中海市長会を結成。次の取り組みを実施。

- ・ 公共施設(体育施設・文化施設)の市外料金区分撤廃による相互利用
- ・ 公共交通機関の共通乗車券や観光施設等の共通入場券の作成

十勝地域では、品質の高い農産物を活用した菓子の製造が盛んであり、菓子による地域活性化を目的として、民間の取り組みが進んでいる。



【参加店舗数】
帯広市外23店
帯広市内19店

地域からの声

昨年の4～6月に、スイーツによる地域活性化を目的として、スタンプラリーを企画・展開した。地元のお菓子メーカー42店舗が参加した取組みは十勝独自のもの。

また、帯広で、毎年「菓子大国とかちフェスティバル」が行われているが、市民に浸透しており、札幌、苫小牧、釧路、北見から、菓子まつりバスが運行されるなど、多くの集客がある。
(来場者数:約6万人/6日間)



(株)柳月 田村社長

「菓子王国十勝スタンプラリー」の取組み

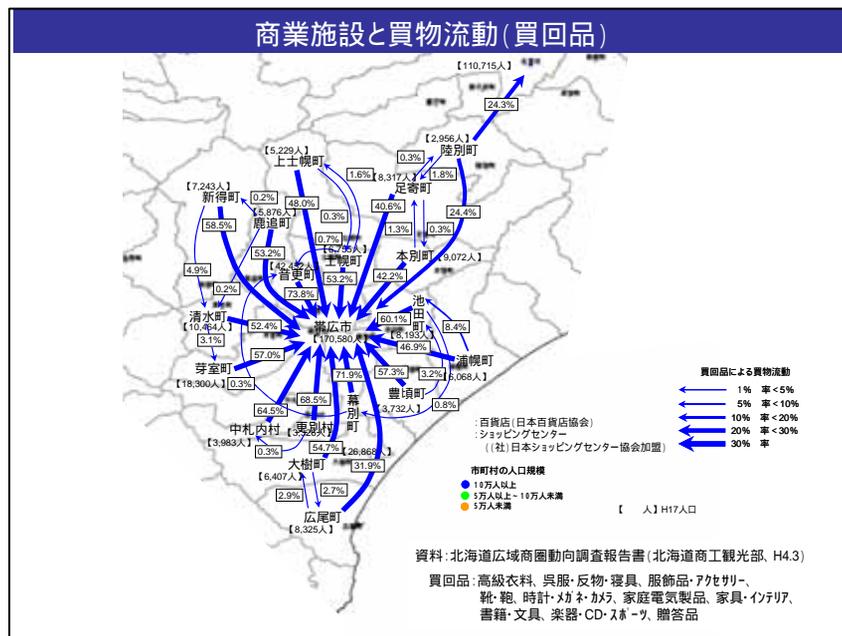
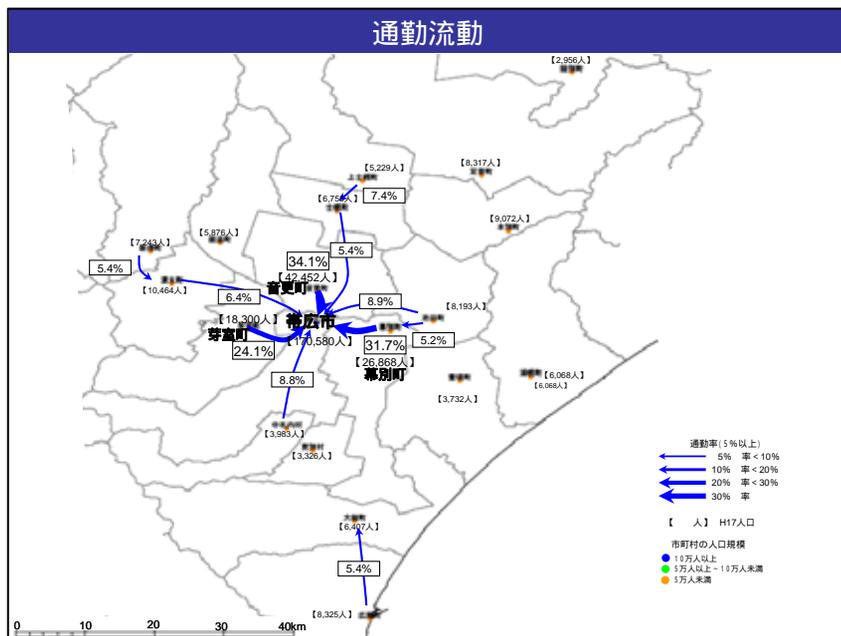
2. 地域における生活行動

生活行動に着目すると、以下の傾向があることが分かる。

生活行動の形態は生活機能の集積状況等によって異なり、特定の市町村に集中している地域、比較的分散している地域などがある。

生活行動の広がり、それぞれの行動で異なるものの、一定の範囲の中で閉じている傾向がある。

十勝地域では、生活行動全般として帯広市を中心としたモノセントリックな流動であるが、買物を見ると周辺市町村同士もしくは圏域外(北見市)の流動もみられる。



(参考資料1)

各地域で、客観的に当該地域を把握するための「UI」ターン経験者ヒアリング」や、地元市町村・企業等への「地元ヒアリング」を実施。

(1) 地域の課題関連

()内は地域名

< 担い手 >

- ・ 住民の力により観光と農業を結びつけてまちおこしを行う意気込みがある。しかし、リーダーは60歳以上が多く、今はうまくいっても次世代に繋がるかが不安。現状では後継者が見えないため、次世代に繋げるための新しい仕組みが必要。(檀原)
- ・ 町全体で移住者を歓迎する環境作りが大切。子供達が地元で就職、結婚、生活できる環境作りが必要。(四万十)
- ・ 農業を始めるにあたり、研修制度が充実したところを探していた。安来市が最も良かったので研修に参加し、そのまま就農した。(松江・米子)

< 地場産業 >

- ・ 地域企業が造船で培った防水や密閉の技術に着目して、半導体製造機器の修理業者の新たに進出があった。(気仙沼)
- ・ 特色ある地場産品が豊富にあるが、生産者と旅館との連携が弱く十分に提供・活用されていないなど、生産者と地元関係者・消費者を繋ぐ仕組み作りが課題である。(舞鶴・京丹後・宮津)
- ・ 零細漁業者の協業化が課題。(気仙沼)

< 生活機能・公共交通・社会資本整備 >

[医療]

- ・ 転居と出産が重なったが、産婦人科が無く、豊後大野市の病院まで通った。(阿蘇・竹田)
- ・ 両親が病気のためUターンで帰ってきたが、地元で専門医が少なく、大分市まで通っている。(阿蘇・竹田)
- ・ 医師不足が深刻化した際には、県境を越えて気仙沼市への搬送を行っていたことがある。(気仙沼)
- ・ 医療圏について、檀原市の休日・夜間の診療は圏域を超えて(大阪からも)患者を受け入れており、広域的な役割は大きい。(檀原)

[教育]

- ・ 安来市から米子市の進学校への受験ニーズがあるが、県境を越えて入学することは原則できないため、米子市へわざわざ住民票を移して入学する人もいる。(松江・米子)
- ・ 少子化などの理由による小・中学校の統合が気になる。通学距離が劇的に遠くなる。(松江・米子)

[商業]

- ・ 買い物は、高山の中心部はよいが周辺部は不足しており、特に冬場は日常の買い物が不便。(高山)
- ・ 食料品は問題ないが、生活用品や衣料品の店で若者向けのところがない。商店街の中で閉店が多くなり、街の活気が無くなった。(四万十)

3. 地域の声

[公共交通]

- ・ 柱になるバスルートが必要であり、現在各市町村で運行しているコミュニティバス等を共同化することも必要である。(檀原)
- ・ 公共交通が不便で車を買った。運転できるうちはいいが、車を所有できなくなった場合や年を取ってからが心配。(銚子)
- ・ 松江・米子地域は、様々な観光資源が点在しているにも関わらず、二次交通(バス網等)が整備されていない。バス路線の認可が県単位であることなどが障害になっている。(松江・米子)

[社会資本整備]

- ・ 高速道路の整備が悪く、山口、広島方面は隣県とは思えないほど遠い。浜田、益田は陸の孤島で他県のように感じる。(松江・米子)
- ・ 神通川や木曾川の源流の森づくりのネットワークを広げることが必要。(高山)
- ・ 圏域外への救急搬送件数が多いが、高速交通体系の不備で搬送に時間がかかる。(気仙沼)

<その他>

- ・ 幡多地域(四万十地域)は、「幡多弁」という共通の方言を有するなど共通の文化があるという背景から、地域ブランドを活かす上で、四国西南地域が連携することは難しくない。(四万十)
- ・ ネット環境の整備は急務。これさえ整えば、都市と地方の差はほとんど無い状況になっている。(四万十)
- ・ 行政に危機感がない。(阿蘇・竹田)
- ・ 銚子は昔から総合的(農・漁・自然・景観)にブランドが高く、特別なことをやらなくても困ることは無かったから、真剣に取り組んでこなかった。現状でも特に困っていることはないが、将来を考えていかなければならない。(銚子)

(2) 地域の潜在力関連

- ・ 50歳前から田舎、自然の中で暮らしたいと思っていた。自然環境が良く、近隣の人と親戚のように良い付き合いをしている。(阿蘇・竹田)
- ・ 収入は1/3以下であるが、都会に比べ物価も安く、支出は半分で済む。野菜、魚類は特に安く、新鮮で都会よりも良いものを食べている。都会に比べ、田舎は元気。(四万十)
- ・ 新鮮で安全な農作物・魚介類を食べることができる。(銚子)
- ・ 体験交流事業の仕事をしたかったところ、阿蘇市で募集があったため希望した。自然が豊かで人が温かく、美味しいものもある。(阿蘇・竹田)
- ・ 農産物や自然景観など他地域にない豊かなものが多くあるが、それをお金に換えてビジネスをする換金システムが存在していない。(十勝)
- ・ 売れる資源がたくさんあるが、地元の人は当たり前だと思っており、活用されておらずもったいない。(阿蘇・竹田)

(3) 地域間連携関連

- ・ 気仙沼地域では、昔から高校の数が限られる中で目的(普通、農業、水産)に応じて教育を受けられるよう地域内での行き来があり、その名残から県境を越えて入学することが可能となっている。(気仙沼)
- ・ 飛騨地域一円(3市1村)で飛騨の匠に関する資源を一元化し回遊してもらうため、「飛騨の匠街道」としてスタンプラリー、マップ作成、案内板設置等に取り組んでいる。(高山)

4. 圏域としての取り組みの方向性

各地域の今後の取り組みの方向性は、大きく分けると次の通り。(検討中)

(1) 生活機能の市町村間連携

- ・ 府県の垣根を越えた医療体制の充実・医療施設の機能分担 (舞鶴・京丹後・宮津)
- ・ 県境を超えた下水道の効率的な整備 (松江・米子)
- ・ 行政界を超えた除雪連携体制の構築 (長岡)

(2) 地域循環・地産地消の促進

- ・ 間伐材を活用した木質燃料(ペレット)の製造、地域の事業所や家庭でのペレットストーブの普及促進の一連の取組により地産地消を推進する。(高山)
- ・ 林業・建設業の協働による新しい林業経営のビジネスモデルを開発。林業の効率化と、就労の確保を図る。(高山、四万十)

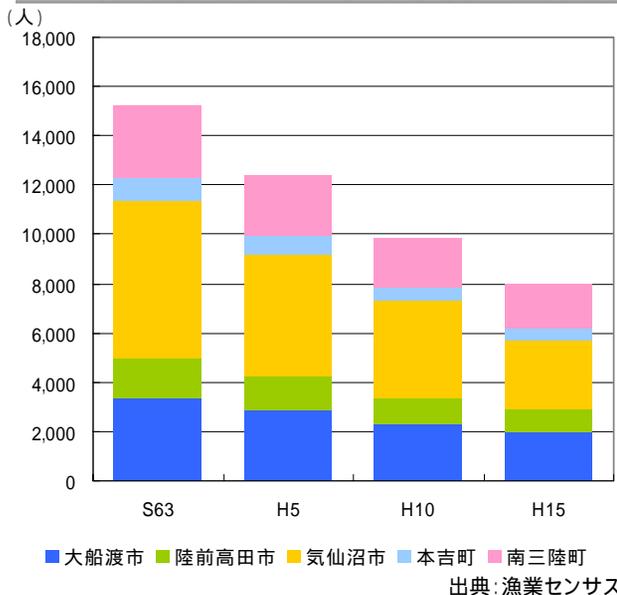
(3) 地域資源の高付加価値化・ブランド化・流通開拓

- ・ 豊富な素材(魚、野菜、豚)と考案された開発商品を活かし、「素材を提供するだけのまち」から「食のおもてなしのまち」に転換し、さらなる商品開発や販路拡大を進めるため、農漁商工連携したフードクラスターの展開を図る。(銚子)
- ・ 木工家具と他の伝統工芸とのコラボレーションによる新しいライフスタイルの提案、これまで家具素材として活用されなかった飛騨の杉材の圧縮加工による木工家具の製作など、飛騨の匠の技術を活かすためのブランド化に取り組む。(高山)
- ・ 米の質を向上しブランド化して、新たな消費ルートを開拓すると同時に、地元の観光産業と連携して消費拡大に繋げる。(舞鶴・京丹後・宮津)
- ・ 水産物資源(境港のカニやマグロ、宍道湖のシジミ等)、農産物資源(大山ブランド、奥出雲ブランド等)などによる地域連携型の食のブランド化を図る。(松江・米子)

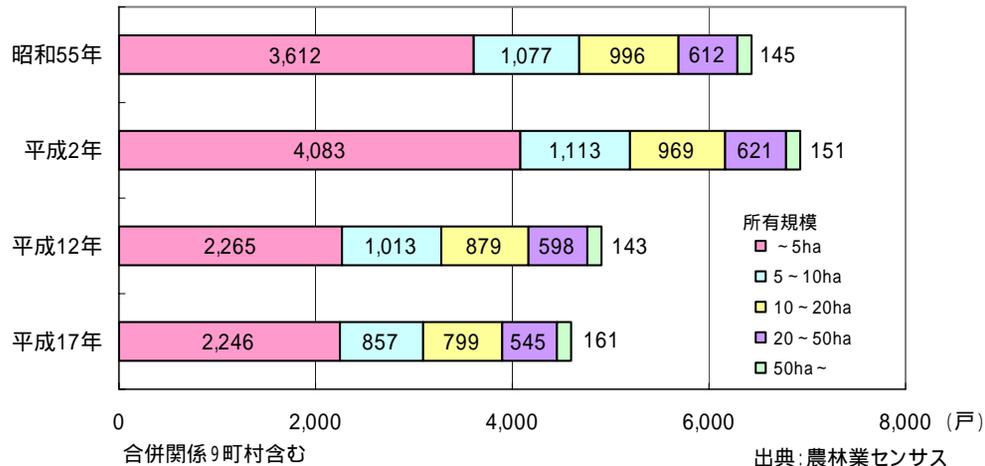
(4) 地域を支える公共交通の確保・社会基盤の整備

- ・ 生活機能をネットワークするバス等公共交通の確保 (四万十)
- ・ 医療施設の連携を図るための広域交通のネットワーク整備 (舞鶴・京丹後・宮津)
- ・ 狭隘な幹線道路の改良や災害に強い道路の整備 (松江・米子)
- ・ 地域の防災力の強化 (長岡、阿蘇・竹田)
- ・ 水と緑の潤いある空間形成 (檀原、松江・米子)

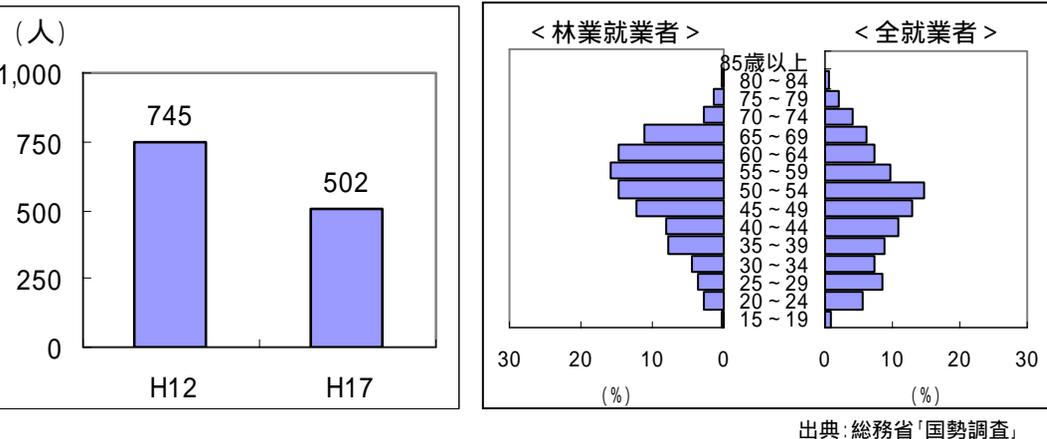
気仙沼地域の漁業就業者数の推移



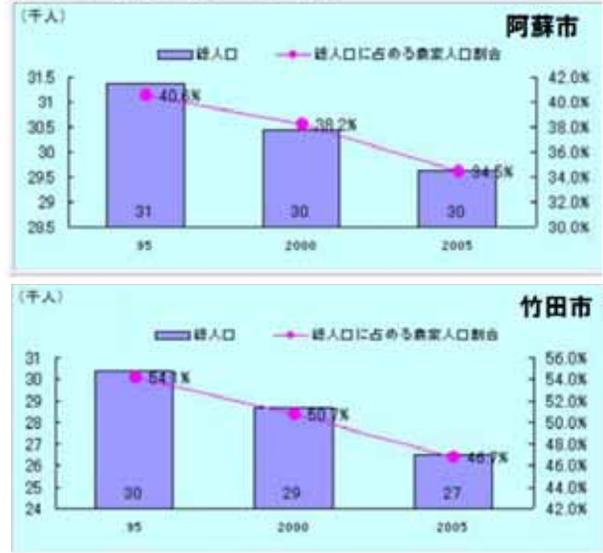
高山市の林家数の推移



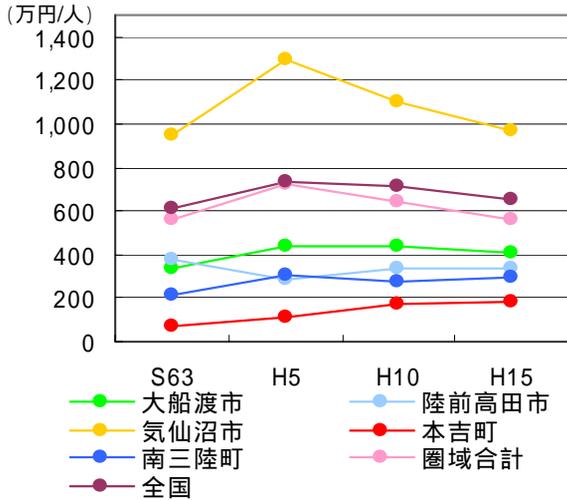
四万十地域の林業就業者数の推移及び高齢化



阿蘇市・竹田市の総人口に占める農家人口割合の10年間の動き

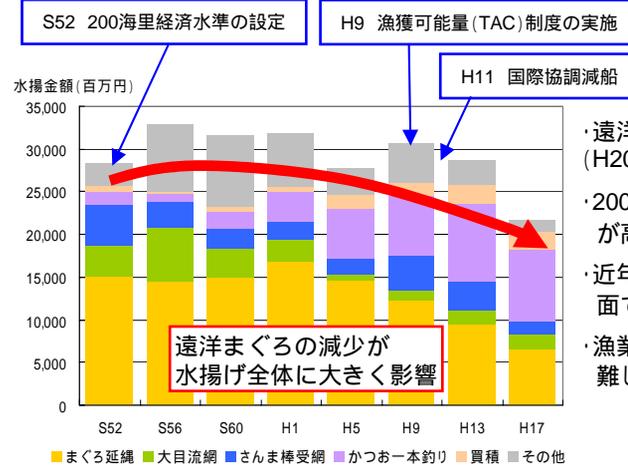


気仙沼地域の一人あたり漁獲金額



出典：漁業センサス

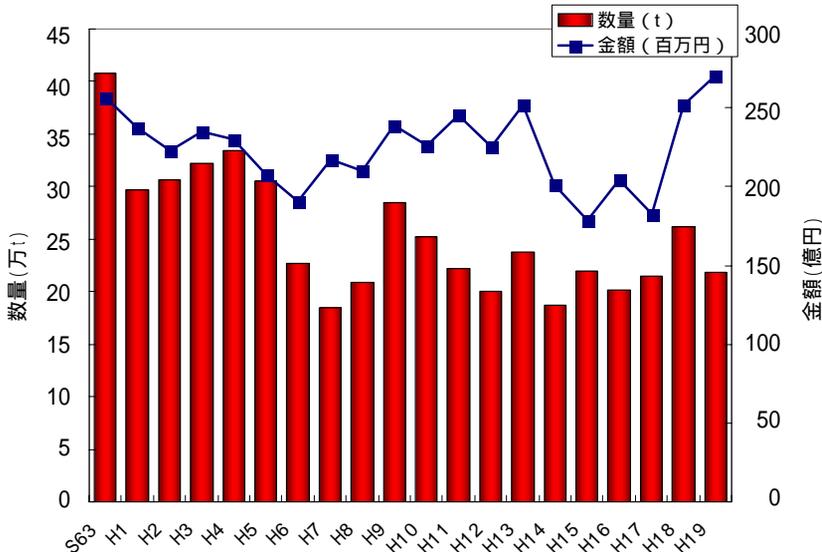
気仙沼地域の地場産業(漁業)低迷の背景



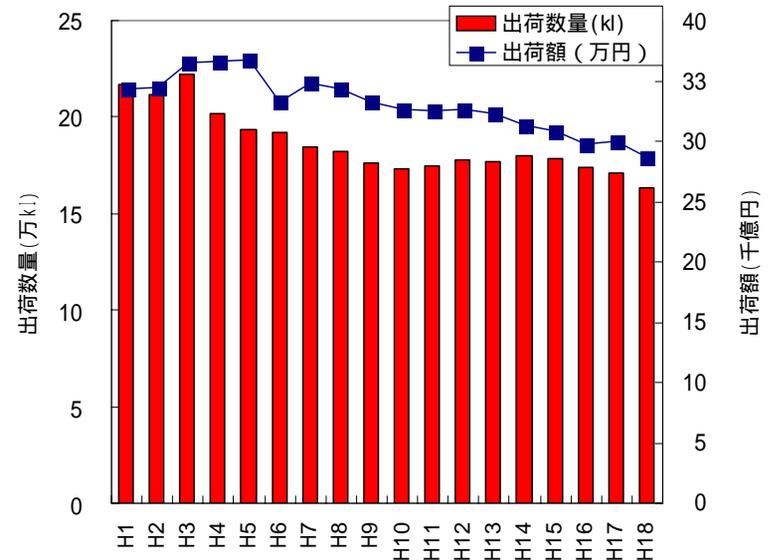
出典：気仙沼市統計書

- ・遠洋まぐろ漁を中心に国際漁獲規制が強まる動き (H20 太平洋まぐろ国際委員会年次会合)
- ・200海里規制、遠洋船の減船などにより遠洋の比重が高い気仙沼は大きな影響を受ける
- ・近年は人件費の安い外国船の漁獲が増え、価格面で苦戦(気仙沼市ヒアリングより)
- ・漁業環境の厳しさが増す中で、後継者の確保が難しくなっている(各市ヒアリングより)

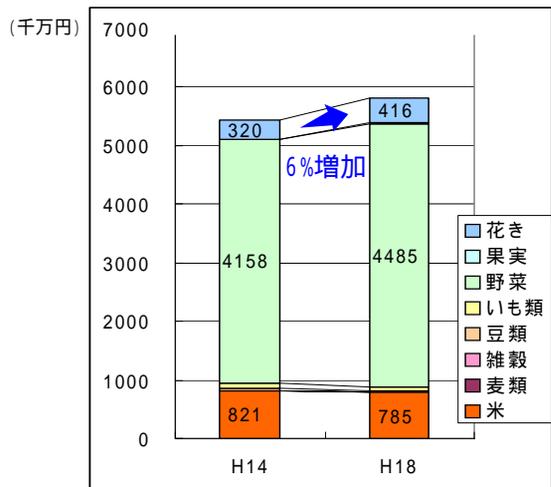
銚子港の水揚げ量と水揚げ高の推移



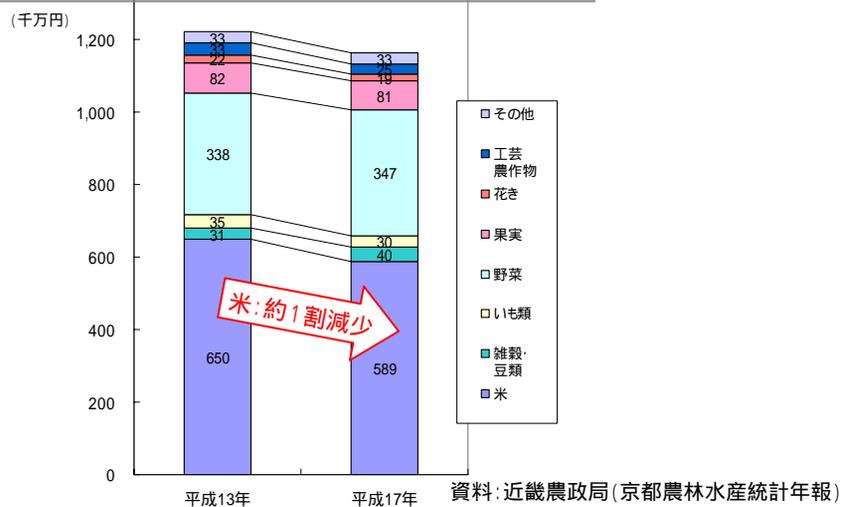
銚子市の醤油・食用アミノ酸出荷数量と出荷額



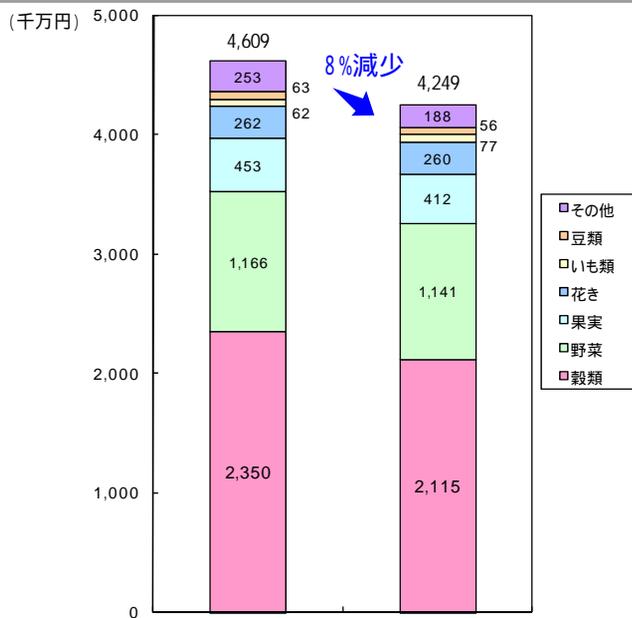
銚子地域での品目別農業産出額の変化



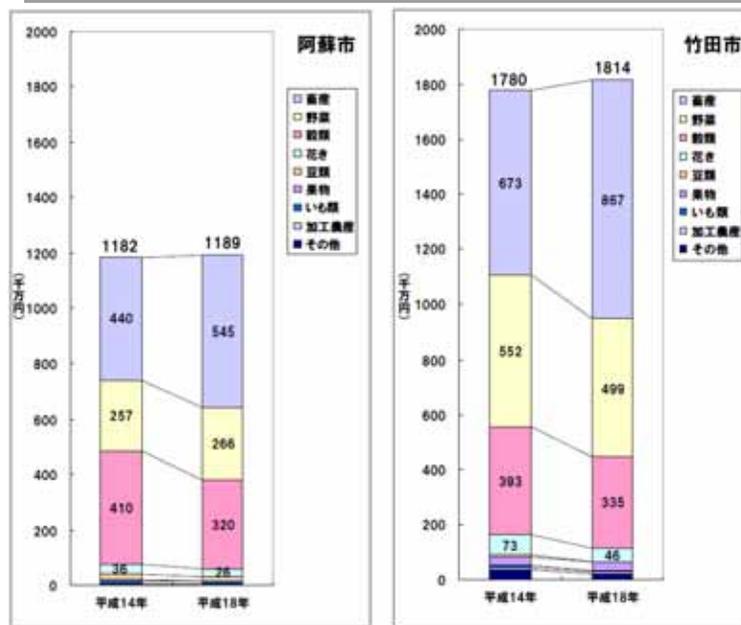
舞鶴・京丹後・宮津地域での品目別農業産出額の変化



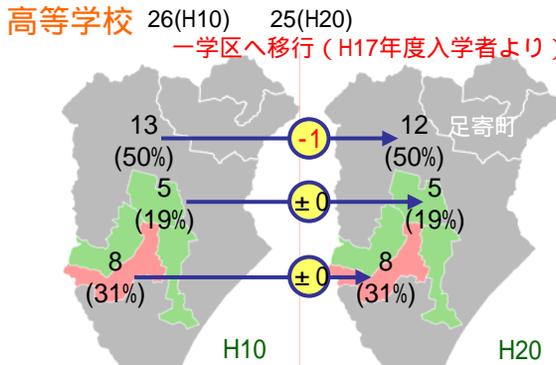
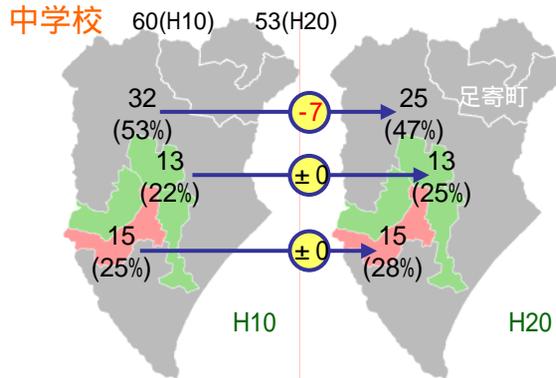
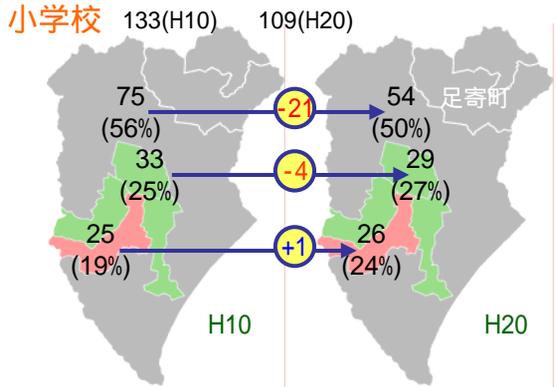
松江・米子地域での品目別農業産出額の変化



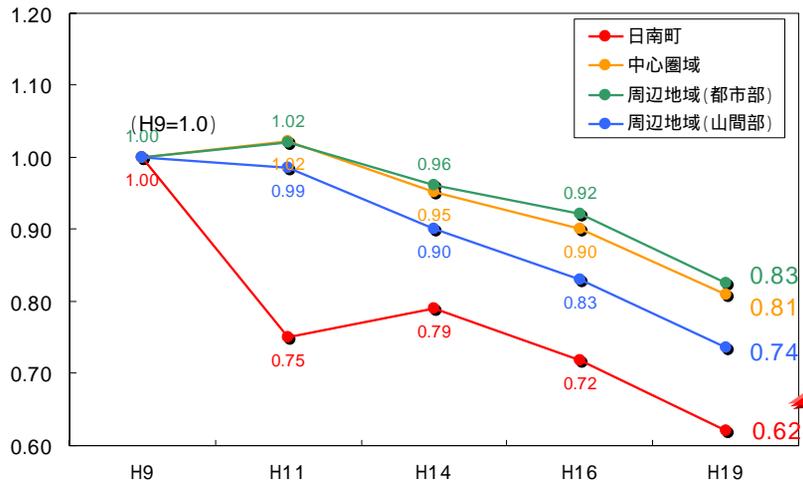
阿蘇市・竹田市の品目別農業産出額の変化



十勝地域における学校数の変化

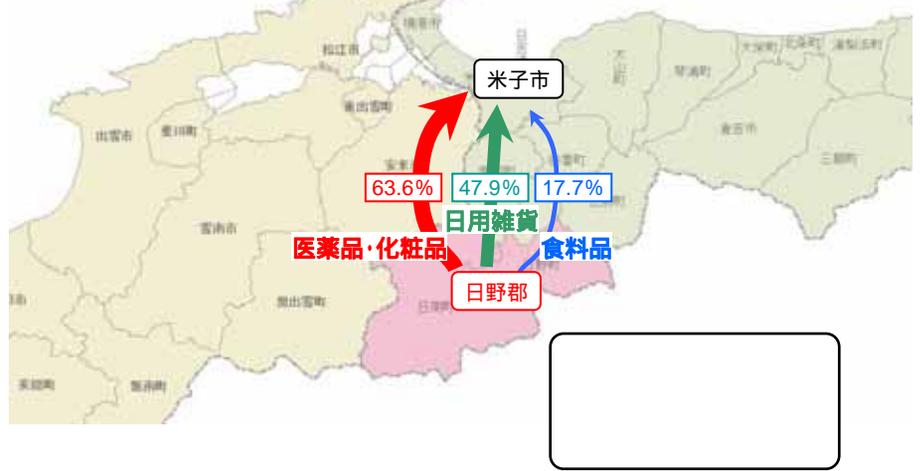


日南町 (松江・米子地域) における小売業店舗数数の推移



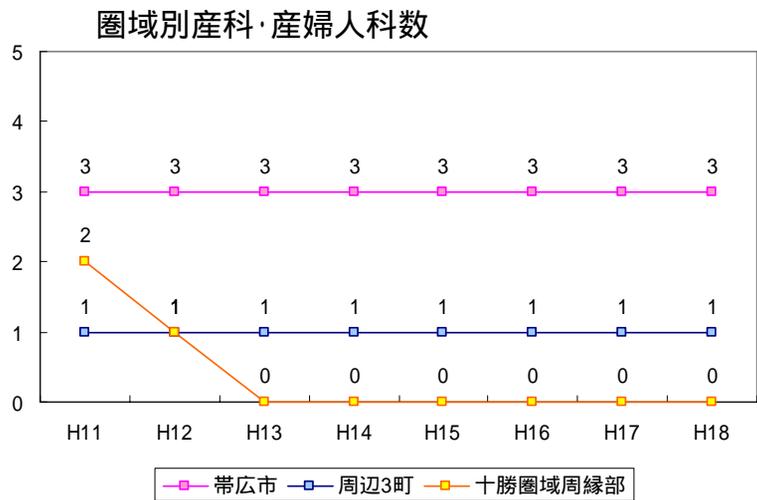
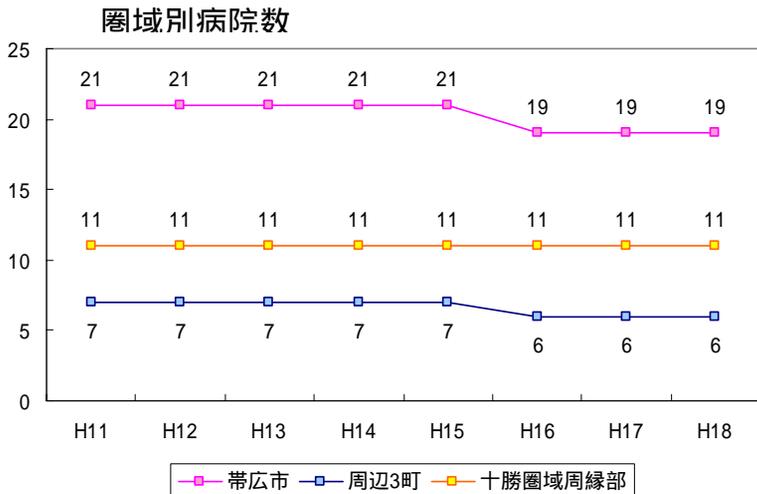
日南町では10年間で約半減

日野郡 (松江・米子地域) における買物流動



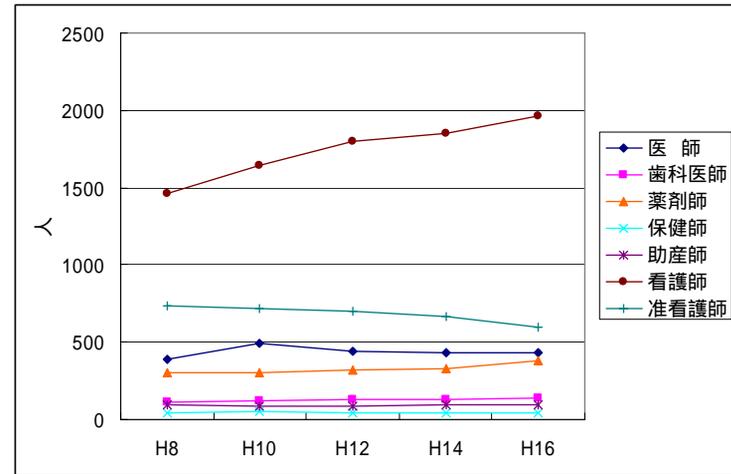
資料: 学校基本調査(北海道)

十勝地域における病院数等の推移



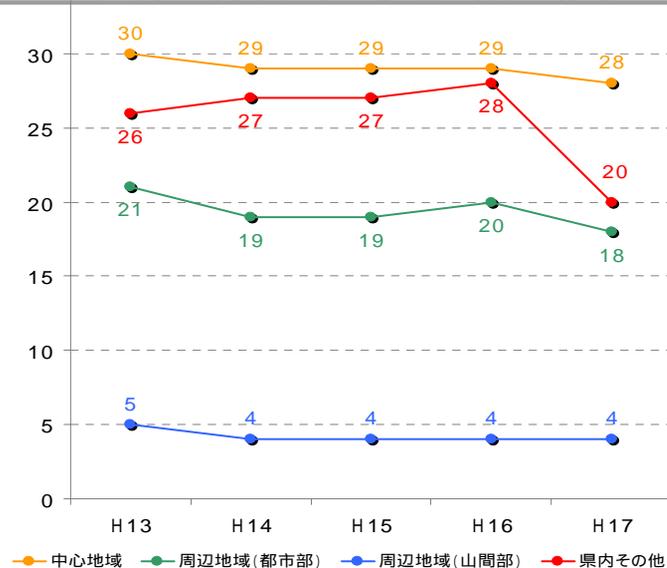
資料：北海道保健統計年報
 病院数には、一般診療所を含まない。診療科目数は、延べの科目数である。

旧長岡市の医療関係者数の推移



資料：長岡市「長岡市統計年鑑（平成19年版）」

松江・米子地域における産婦人科系病院・診療所数の推移

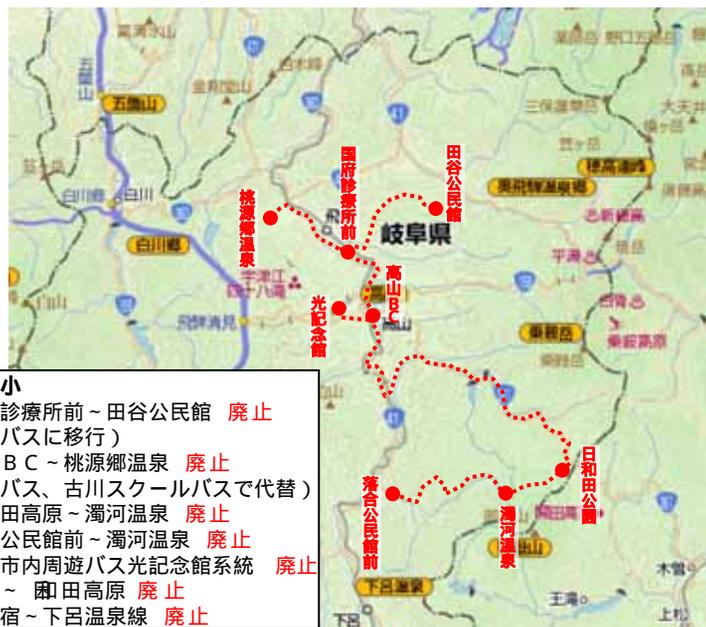


十勝地域周辺の鉄道廃止路線



●●●●● 昭和40年～廃止
●●●●● 昭和50年～廃止
●●●●● 昭和60年～廃止
●●●●● 平成元年～廃止
——— JR営業線
 ※赤字：国鉄・JR路線
 青字：私鉄路線

高山市周辺のバス路線の縮小



濃飛バスの路線縮小
 H 18. 7 国府診療所前～田谷公民館 廃止
 (高山市 地域バスに移行)
 H 19. 3 高山BC～桃源郷温泉 廃止
 (飛騨市巡回バス、古川スクールバスで代替)
 H 19.11 日和田高原～濁河温泉 廃止
 " 落合公民館前～濁河温泉 廃止
 H20. 3 高山市内周遊バス光記念館系統 廃止
 " 高山～困田高原 廃止
 H20. 7 東新宿～下呂温泉線 廃止

十勝地域の公共交通利用者減少・サービス低下の悪循環

